

吉祥村の日々 (1992)

雑嘴子

AN INNOCENT BABBLER

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 中国

色彩 Color

時間 95分

初公開日 1994/12/03

公開情報 T J C 東光徳間

【解説】

'85年に中国最年少の25歳で監督デビューを果たした俊英・劉苗苗、30歳の4作目。ロッセリーニを愛するという彼女の、'93年ベネチアで国会議長賞を獲得した、自伝的要素の強い小品だ。舞台となる寧夏自治区はユネスコが世界10大最貧困地帯の一つと認定している寒村。原題の“おしゃべりっ子”とあだ名される主人公、民生は両親と兄・群生との4人暮らし。頭の回転の早い、利発で元気な少年だ。村で唯一の小学校に通い、皆と同じに神秘の山・青竜山への砂金探しを夢みる。ある日、村の会計役の父が汚職の疑いで逮捕され、村人たちの一家に対する態度が一変する中、学校の王先生だけは同情的で、群生の結婚も無事とりまとめる。また、村長の孫で父親のない典々も民生と親しく接し、実は王先生は自分の父親だと告白するが……。民生のお喋りが借金返済のための兄のトラクター売却話をご破算にし、怒った兄が新車同様のそれをぶち壊す場面、やはり、民生の口ぐるまで雪の中、子供たちが砂金探しに出かける場面が後半のクライマックス。出稼ぎ後、爆竹づくりに転職した兄の作業とカットバックで描かれる、探検のシーンはスリルいっぱいだ。王先生による訓話も一くさりあり、児童映画の体裁も保ってはいるが、純真であるがゆえに罪作りの民生の“汚れなき悪戯”を描いて、鋭い人間洞察の行き渡った優れた作品である。

【クレジット】

監督 リュー・ミャオミャオ

脚本 ヤン・チョンクワン Yang Zheng-Guang

リュー・ミャオミャオ

撮影 王久文

音楽 温中甲

出演 リー・レイ

ユアン・チン

ルー・シャオアン